

私の工夫

「友達つていいな」
— 集団での遊びを通して、
友達との育ち合いを考える —

倉敷市立赤崎幼稚園

教諭 米澤 友美



1 はじめに

本園は全園児十四名の複式学級であり、年長児と年少児が日々の生活の中で自然に関わることができ、友達が大好きな幼児が多く、友達と遊ぶことを楽しんでいる。しかし、遊びの中で自分の思いを言葉で表現したり、自分から友達の輪に入ったりすることができにくい幼児もいる。また、複式学級のため、学年ごとの活動がもちにくい面もある。

このような実態から、友達と一緒にいろいろな活動に取り組む中で、思いを出し合いながら一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、力を合わせて一つのことをやり遂げる満足感を味わったりできるようにしたいと考えた。



お化け屋敷でお客さんを案内している様子

2 具体的な取組

— お店ごとの活動を通して —

(1) 学年に合わせた取組の工夫

① 学年ごとのグループをつくる
年長児には共同的な活動を経験させ、年少児には自分なりの思い

をもって作ることを楽しませたいと考え、年長と年少に分けて活動させた。各学年で何をしたいかを話し合い、年長児はお化け屋敷、年少児はレストランをすることに決めた。それぞれの学年で違う活動をしたことで、発達段階に応じた話し合いや役割分担をすることができた。

② 教師間での連携

活動の計画のときから、補助教諭も関わったことで、タイミングよく声掛けや援助をすることができた。また、保育後に気付いたことを教師間で話し合うことで、一人では見られない子どもの良いアイデアや頑張りを知ることができ、次回につなげていくことができた。

(2) 一人一人が思いを出し合えるようにするための工夫

① 共通のイメージをもてるようにする

幼児がイメージを共有しながら話ができるように、昨年度の活動の写真やお化けの絵本やイラストなどを用意した。年長児は話し合いの手がかりになるものがあつた

ため、自分なりのイメージを話したり、イラストに描いたりして、相手に伝えようとする姿が見られた。年少児には、見本や実際に作ったものを見せながら話をするこゝとで、興味をもって話を聞くことができた。



学級で話し合いをしている様子

② 幼児の思いや考えをつなぐ

活動の中で、幼児のつばやきや心の動きを周りの幼児に伝えるこゝとで、友達の思いに気付くきっかけをつくっていった。また、良いアイデアをもっている幼児を認

めたり、うまくできない部分や困っていることを周りの幼児に聞くとよいことを伝えたりし、互いに刺激を受けたり、友達の思いを聞いたりできるようにした。

③ 幼児の思いを実現できるようにする

幼児が自分なりに試したり工夫したりできる時間を十分にとるよう心がけた。また、幼児がイメージしたものができあがるように、幼児だけではアイデアが出ないときは、教師もアイデアを出したり、必要なものを一緒に考えたりした。自分が考えたことが友達に受け入れられることは、幼児の自信につながった。自分のアイデアが実現することがうれしく、いろいろな意見を出すことができようになり、活動が一段と盛り上がったいった。

(3) 異学年での関わりを促す工夫

年長児と年少児が同じ空間で活動できるように場を設定し、お互いの様子を見合えるようにした。年少児は年長児のしていることに興味をもち、お化け屋敷に入ることを楽しみにしていた。年長児も

年少児から期待されたことで、意欲をもって取り組むことができた。また、年少児も難しい所は年長児に教えてもらったり、褒めてもらったりして、楽しんで取り組むことができた。



レストランで未就園児と関わっている様子

お店ごっこ当日は、保護者や未就園児を招待したり、年長児と年少児がお互いの店に行ったりした。友達が楽しんでいる様子を見たり、保護者から頑張りを認められたりするなどで、年長児も年少児も満足感を味わうことができた。

(4) 各学年での活動を全体の活動につなげる工夫

年長児はお化け屋敷で段ボールを使ったことがきっかけで、段ボールを使った車づくりを楽しむようになった。年少児も年長児のしていることに興味をもち、一緒に作るうとする姿が見られたが、うまく思いを伝えることができない様子が見られた。そこで、教師が年少児の思いを代弁したり、降園前の話し合いで話題に出したりした。どうすれば年少児も一緒に遊べるか考えられるように援助していき、年少児が自分の思いを自分なりの言葉で出せたことで、年長児も年少児にできることを探したり、一緒に手伝ったりする姿が見られた。年少児も年長児にあこがれの気持ちをもつことができた。

3 おわりに

それぞれの学年に合わせた活動をすることで、年長児、年少児が思いを出し合いながら取り組み、達成感を味わうことができた。また、いろいろな人から認められ

た経験は幼児の自信になり、次への意欲につながったと考える。各学年の活動を全体で振り返ったり、一緒にする遊びにつなげていったりすることで、より幼児同士が育ち合っていくのではないかと感じた。今後も、幼児が自分の思いを出し合い、友達と一緒に一つのことをやり遂げる楽しさを味わえるようにしていきたい。



製作途中の車で年長児と年少児が遊んでいる様子